

教職課程における道德教育指導論の在り方

木村 勝美*

Guidance for Teaching Moral Education in a Teacher-Training Course

by

Katsumi KIMURA*

要 旨

本稿では、道德教育の充実・推進のための道德教育推進協議会の開催、道德教育指導計画等の作成、道德教育推進用教材の作成及び道德教育研究推進校の研究指定等の熊本県教育委員での取組並びに本学開設の教員免許状更新講習における道德教育講習の成果や課題について考察しまとめた。

また、平成27年3月27日の学校教育法施行規則等の改正により、「道德」が「特別の教科である道德」に改められるとともに、内容の改善を図るため「いじめ問題への対応の充実」、「問題解決的な学習、道德的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど指導方法を工夫すること」等が示された。新たに位置づけられた「特別の教科 道德」の趣旨・内容等を踏まえ、本学の教職課程における道德教育指導論について、「質の高い多様な指導法」、「考え議論する道德を展開するための学習方法の在り方」及び「検定教科書や地域教材等の教材の活用」等の視点から、今後の授業の展開の在り方を整理しまとめた。

Key Words: 道德教育の充実・推進のための取組、特別の教科道德、考え議論する道德

1. はじめに

教育基本法の第1条（教育の目的）に、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない。」と規定されている。ここで述べられている人格の完成の基盤となるのが道德性であり、その道德性を育てることが道德教育

の使命である。現行の学習指導要領の道德教育について述べると、学校における全体的な道德教育の目標としては、「道德教育の目標は、第1章総則の第1の2（道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心もち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国

*崇城大学総合教育センター准教授

家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。)に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。」と記され、道徳の時間の目標としては、「道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関係を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳実践力を育成するものとする。」と記されており、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて道徳教育を行うものとなっている。

子供たちの道徳性の発達の視点から、子供たちを取り巻く社会の状況を見てみると、「社会全体や他人のことを考えず、専ら個人の利害損得を優先させる。」「夢や目標に向けた努力、特に社会をよりよくしていこうとする真摯な努力が軽視される。」などの社会全体のモラルの低下や、少子化・核家族化・都市化などによる家庭や地域の教育力の低下、また、インターネットや携帯電話等の情報化に伴う影の部分等が子供たちの成長に大きく影響し、「無気力・無責任・無感動」の3無主義や「無関心・不（無）作法」が加わり5無主義の傾向が子供たちに見られるとも言われている。このような子供たちの状況を考えるとき、道徳教育の果たす役割は益々重要なものとなっており、道徳教育の一層の充実を図るため、平成27年3月27日に「学校教育法施行規則の一部を改正する省令、道徳に係る小学校、中学校、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部を改正する告示及び移行措置に係る告示」が公表され、道徳が「特別の教科である道徳」に改められた。

本稿においては、道徳教育に係る熊本県教育委員会での取組及び本学開設の教員免許状更新講習での道徳教育に係る講習内容をまとめるとともに、平成31年度から中学校で実施となる新たな道徳教育の方向性（道徳科の実施等）を考

察し、本学の教職課程の授業科目である「道徳教育指導論」の授業内容の改善・充実を図るための参考にしたいと考えている。

2. 県教育委員会での道徳教育への取組

熊本県教育委員会在職中（平成6年度～平成21年度）に道徳教育充実・推進のための事業として、「熊本県道徳教育推進協議会の開催」、「道徳教育の指導計画等の作成の推進」、「道徳教育用郷土資料活用のための指導資料集の作成」、「小・中学校道徳授業実践DVDの作成」、「道徳教育研究推進校の指定」等に取り組んできた。

(1)熊本県道徳教育推進協議会の開催

本県道徳教育の推進を図るため、「道徳教育の充実に向け、道徳教育実践研究事業の研究推進校における取組の推進を図り、研究の成果を県内の学校に広く普及させるとともに、今後の道徳教育の在り方についての方針及び推進策等について協議する。」を目的に学校の教員や有識者から成る「道徳教育推進協議会」を開催し各種事業に取り組んできた。

道徳教育推進協議会の取組の1つとして、下記の三つの提言を頂き、各学校に啓発し豊かな心をはぐくむ道徳教育の一層の充実を図ったところである。

『道徳教育推進協議会からの提言（平成19年度）』

①提言1：『道徳性を培う学校や学級の環境づくりを進めましょう』

- ・校舎・校庭や教室の整備をしましょう
- ・児童生徒が生き生きと活動できる人間関係づくりに心がけましょう

②提言2：『学校、家庭、地域が連携した道徳教育を計画的に進めましょう』

- ・自らの生き方の自覚を深め、体験活動を工夫しましょう
- ・学校・地域の人材や特色を生かした計画的な指導を充実させましょう

③提言3：『多様な展開を工夫して魅力的な道徳の時間にしましょう』

- ・道徳の時間の特質を踏まえた学習指導過程

を創意工夫しましょう

- ・児童生徒の発達段階と実態を踏まえた心に響く資料の開発と活用の創意工夫に努めましょう

(2)道德教育指導計画等の作成の推進

道德教育の目標を実現するために、各学校において、校長の道德教育の方針の下、道德教育推進教師を中心に、全教師が協力して道德教育を展開するための「道德教育の全体計画」、「学級における指導計画」、「道德教育年間指導計画」及び「各時間の指導展開（展開の概要）」の4セットの作成の充実を図るよう指導・助言を行ってきた。

各学校で取り組んでいる全体計画や指導計画等の具体的な内容については、後述（①～③）するが、全体計画や指導計画等作成は、全教師が校長の道德教育基本方針や道德の重要性についての認識を深めるとともに、学校の道德教育の重点や推進すべき方向についての共通理解を図るために、さらに生徒の発達段階に応じて系統的・計画的に実施していくためにも必須のものである。

①道德教育の全体計画

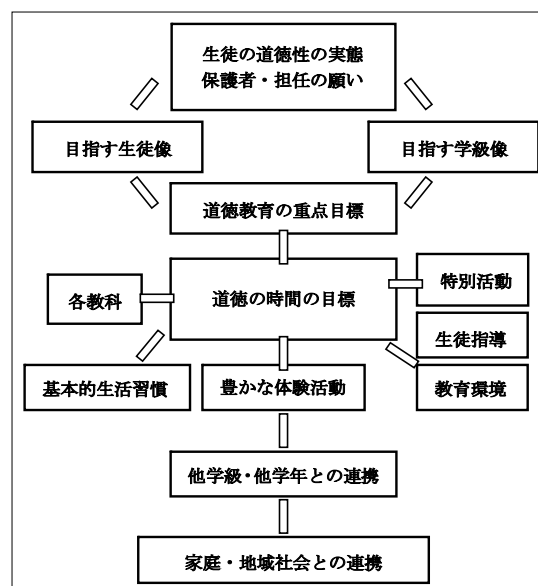
全体計画は、学校における道德教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道德教育の目的を達成するための方策を総合的に示した教育計画で、内容としては、「教育関係法規、時代や社会の要請、学校や地域の実態、生徒の実態等」の基本的把握事項と「学校の教育目標、道德教育の重点事項、道德の時間の指導の方針、各教科等における道德教育の指導の方針、学級・学校の環境の充実・整備、家庭・地域社会・関係機関との連携方針等」の具体的計画事項が掲げられている。学校における道德教育の中軸となるのは、学校の設定する道德教育の基本方針であり、全体計画はその基本方針を具現化する上で重要な役割を果たしている。

②学級における指導計画

学校の全体計画の基本的方針の具現化が図られる基盤となる場合は、個々の学級にあり、学級における指導を充実させることが道德教育の充

実・推進には不可欠である。そのために必要なものが学級における指導計画【表1】で、「生徒の実態、生徒・保護者・教師の願い、学級の道德教育基本方針等の基本的把握事項」及び「豊かな体験活動の計画、生徒指導にかかわる道德教育の視点、教育環境の整備計画等の具体的計画事項」から構成されている。

表1 【学級における指導計画（簡略化）】



③道德年間指導計画と各時間の指導展開

年間指導計画は、道德の時間の指導が、全体計画に基づき、生徒の発達段階に即して計画的、発展的に行われるよう組織された全学年にわたる年間の指導計画で、具体的には学年の道德年間指導計画【表2】に見られるように、道德の時間に指導しようとする内容について、生徒の実態や多様な指導方法を考慮し、各学年ごとに主題及びねらいを設定し、それを年間を見通して適切に位置づけ配列したものである。

このような年間指導計画は、

- ア 3年間を見通した計画的、発展的な指導を可能とする
 - イ 個々の学級において、道德の時間の学習指導案を立案するよりどころとなる
 - ウ 学級相互、学年相互の教師間の研修などの手掛かりとなる
- などの意義を有している。

学級の指導計画や道德教育年間指導計画に基

づき作成されている各時間の指導展開の略案が展開の大要で、道徳の時間を意図的・計画的に実施するために、各学校においては、「主題名」・「資料名」・「内容項目」・「ねらい」・「主題設定の理由」・「展開の概要」を記述した各時間の展開の大要【表3】を35週分作成し学校の道徳教育計画に記載されている。

表2 【学年の道徳年間指導計画の一部（中学校）】

第〇学年 道徳年間指導計画			
月	【主題名】 資料名、内容 項目	ねらい	資料の 特質等
4月	【心と形】 おはよう 「礼儀・適切な言葉」	社会生活における挨拶の持つ意義を理解し、時と所に応じた挨拶をしようとする態度を育てる	生活随想、知見 資料 心のノート
	【日本のよさ】 海棠と菜の花 「愛国心」	生まれ育った土地や国のよさに気づき考え、国を愛するとともに、その伝統や文化を大切にしようとする態度を育てる	感動資料、生活文、心のノート
	省略	省略	省略

表3 【各時間の展開の大要（35週分の1時間分）】

主題名	日本のよさ	指導時期	4月第2週
資料名	海棠と菜の花	副読本	10ページ
内容項目	愛国心・伝統の継承と文化の創造	主な関連活動	社会・国語・音楽・総合
ねらい	生まれ育った土地や国のよさに気づき考え、国を愛するとともに、その伝統や文化を大切にしようとする態度を育てる		
主題設定の理由	国際化の進む現代の中学生に必要なことは、様々な国や土地のよさを認めるとともに、自分の現在生活している日本のよさに気付くことである。外国のよさとの比較の中で、日本のよさを意識することが、国際社会の中での愛国心を育てるうえで重要な第一歩となる。		
展開の大要		指導上の留意点	
導入	自分が知っている世界の国で、いいなあと思うところを発表	自分が生活してきた国や今まで学んできた国のことを思い出してみ、いい	

	し合う。(発問省略)	なあと思うことを話し合わせる。
展開	「海棠と菜の花」を読んで話し合う(発問省略)	プロ野球の違いなどを例に出すと、日本とアメリカの違いが考えやすい。
まとめ	日本のよさには、どんなことがあるか話し合う。(発問省略)	日本の身近なところから日本のよさを語り合い、日本って良いなあと思う気持ちを持てるようにしたい。

(3)道徳教育用郷土資料（熊本の心）活用のための指導資料集の作成

郷土の先人の伝記や逸話などから人間の生き方や考え方を共感を持って学び取ったり、郷土に対する愛着を深めることを目的とする道徳教育用郷土資料「熊本の心」の活用・実践化を図るための指導資料集を中学校の校長、教諭等から成る「道徳実践活動学習教材作成に関する委員」により作成し各学校へ配布した。

具体的には、道徳の時間の目標「道徳の時間においては、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的实践力を育成するものとする。」を達成するために、道徳教育の要となる道徳の時間とそれ以外の教科等における道徳教育との関連を考えて、本時（道徳の時間）と関連深い伝統芸能やスポーツ大会、ボランティア活動等を事前・事後指導の内容に位置づけた「指導計画」【表4】や、生徒を中心においた価値の追究・自覚の場面を重視した「本時の展開」、導入―展開―終末が一見して把握できる工夫や中心場面が明確になるよう文字や挿絵を工夫した「板書例」【表5】などを記載し、各学校で実態に即した特色ある授業の展開が図られるよう配慮している。

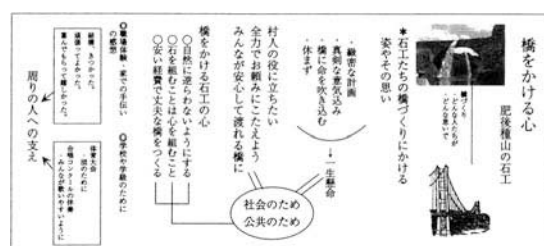
この指導資料集が活用され、各学校の道徳教育の充実・推進が図られてきたところである。

表4 【道德の時間と教科等の道德教育との関連を図った指導計画】

「指導計画の形式」		
	各教科・特別活動等	指導・活動内容
事前	④地域行事・PTA行事 ⑤実態調査 等	④伝統芸能、スポーツ大会 ⑤本時に関連した事前アンケート(生活習慣、自然・社会体験の状況の調査等)
本時	道德の時間	道德の時間においては、道德教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道德教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道德的価値及びそれに基づいた人間としての自覚を深め、道德的実践力を育成する。
事後	・各教科 ・学級活動 ・学校行事 ・生徒会活動 ・総合的な学習の時間 ・地域行事・PTA行事	・学習活動・生活へ生かす *詳細は別添

	各教科・特別活動等	指導・活動内容
事後	①各教科 ②特別活動 学級活動 学校行事 生徒会活動 ③総合的な学習の時間	①道德の時間などの関連を考慮しながら、第3章道德の第2に示す内容について、各教科の特質に応じて適切な指導をする。 ②同上、特に、特別活動の「望ましい集団活動」による生徒の主体的、実践的な活動の特質を生かし、道德的実践の指導の充実を図る。 ・学級や学校の生活づくり、適応と成長及び健康安全、学業と進路 ・儀式的行事、文化的行事、健康・体育的行事、旅行・集团的行事、勤労生産・奉仕的行事 ・異年齢集団による交流、ボランティア活動などの社会参加 ③・・・3章道德の第2に示す内容について総合的な学習の時間の特質に応じて適切な指導をする。

表5 【板書例：橋をかける心（肥後種山の石工）：勤労の意義】



(4) 中学校道德授業実践 DVD の作成

中学校の道德の時間の指導の充実を図るため、「道德の授業の一層の充実のために」と題した中学校道德授業実践 DVD【表6】を中学校の校長及び教諭の協力のもと、平成21年度に作成した。これまで、「熊本県教育委員会では、道德の時間の教材に関する学習教材ビデオ（小学

校：飛び込んだサッカーボール、中学校：私はどの班？）」は作成・配布してきたが、実際の道德の時間の授業を通して道德の授業の在り方を提示したのは本道德授業実践 DVD が最初である。DVD の作成については、道德教育に熱心に取り組んでおられる学校現場の先生方の協力のもと、導入や展開の工夫、そして、ねらいの根底にある道德的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして、今後の発展につなぐ終末段階の工夫を、三つの工夫された指導パターンで提示している。学校現場の先生方がこのような指導形態を参考に、主体的に道德授業への改善・充実に取り組んでいかれるよう支援を行ってきた。

表6 【中学校道德授業実践DVDの概要】

- A 主題名：生命の尊重
B 資料名：決断！骨髄バンク移植第1号
C 学習活動の概要（学習の展開）

学習活動の概要：「決断！骨髄バンク移植第1号」

導入	○命の大切やありがたさについて話し合う。 (課題意識)
展開	○資料を通して、価値について考える。 「田中さんは、どんな気持ちや考えから骨髄提供を遂行しようになったのだろうか？」 (人間理解) 「田中さんと同じ立場だったら、どうしますか？」「同じように、決心したことを迷った経験はありませんか？」 (自己理解：自分とのかかわりで理解する) ○道德的価値に関わる思いや願いを持つ。 「田中さんが、やろうと決断したのは、どんな気持ちからですか？」 (価値理解)
終末	○価値についてまとめ、整理し、自分なりに発展させる。「授業の感想を書き、自分の心を見つめる。」 (価値理解、自己発見) *終末の工夫【DVD視聴・教師の説話・心のノート利用】

【終末の工夫（3つのパターンの提示）】

展開	学習活動		
終末	終末の工夫Ⅰ	終末の工夫Ⅱ	終末の工夫Ⅲ
	①DVD視聴 ・画像・音声によって生徒の感性に訴える ②授業の感想を書き、自分の心を見つめる ③思いを温める BGM	①教師の説話 ・教師の人間性がにじみ出る説話一生徒に感銘を与える	①心のノートを読み、学習を振り返る ・余韻や充実感をもたせて終わる

(5)研究推進校による道德教育実践研究

ア 中学校における研究推進

道德教育の在り方の研究を推進するため、「文部科学省・熊本県教育委員会指定道德教育実践研究事業（平成20～21年度）」により、県内の中学校数校を指定し魅力的な道德の時間づくり等についての研究に取り組んでもらった。指定校の研究発表会で公開授業【表7】を見せてもらったが、「考える道德、議論する道德」の授業形態を通して、道德的価値に迫る創意工夫ある展開がなされており、授業への生徒の能動的な取組が非常に印象深いものであった。

具体的には、「ドナーカード」を教材に、臓器を提供する立場と臓器を受ける立場に立ち、自分の思いそして家族の思いも考慮しながら、道德的価値に迫る内容で、道德的価値も個々によって異なることを考えさせる授業であった。

授業形態も、個人で思考（付箋紙に記入）し、付箋紙の考えを参考にグループで話し合い考えを深め、全体で発表し、自己の価値観を見つめ直す学習過程の授業が進められ、今求められている「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業が実現されていた。魅力的な道德の時間づくりに学校全体で指導体制を確立して取り組んだ素晴らしい実践研究内容であった。この公開授業を通して県内の先生方の道德の時間の指導法の改善が図れたものと思っている。

表7 【公開授業の展開の概要】

学習活動の概要:「ドナーカード」(生命の尊重)	
導入	○ドナーカードを配り、臓器移植についての問題意識を持つ。
展開	○ビデオを視聴し、臓器移植におけるそれぞれの思いを知る。 ・臓器を提供する立場 ・臓器を受ける立場 ○ワークショップ形式で家族の臓器移植について、それぞれの立場について考える。 ・「個人で考え付箋紙に記入」→「班で話し合い互いの考えを共有する」→「全体で発表し価値に迫る」 ・様々な思いや考えがあることを理解する。 【自分と異なる考えにふれ、自らの価値観を見つめ直す】
終末	○資料「ドナーカード」を聞く。 ・現場の医師でも悩むほどの難しい問題であることを認識する。 ○自己の思いや感想を書き、これからの生活を考える。

イ 高等学校における研究推進

高等学校における道德教育については、学習

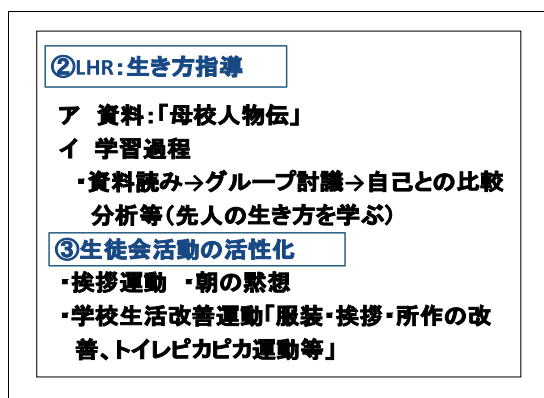
指導要領第1章総則の第1款の2に、「学校における道德教育は、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科に属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、適切に行わなければならない。」と記されている。殊に、高等学校においては、小学校・中学校と異なり、道德の時間が設定されていないため、道德教育の重要性についての教員の意識化を図るとともに、具体的・計画的な取組を行うことがその充実・推進へ繋がるものと考えている。

平成20～21年度文部科学省道德教育実践研究事業で「生徒の自己実現と信頼される人材づくり ～学校の特徴を生かした道德教育の研究～」を研究主題として、指定校が取り組んだ内容は、高等学校の道德教育の在り方の一つとして参考になるものと思っている。

具体的には高等学校における道德教育実践例【表8】のように、社会で活躍している卒業生による母校への誇りと愛着を高め将来への希望や意欲を促す講話を設定した「道德教育講演会」、生徒代表や教師の体験談を通して人間としての在り方生き方を語る「人間としての在り方生き方を考える集会」、母校の歴史や先輩の偉業に思いを馳せながら自らの在り方生き方を考える「母校人物伝を活用しての LHR」等に取り組んでいた。

表8 【高等学校における道德教育実践例】

【道德教育実践例(高等学校)】
①全校集会等における道德教育
ア 道德教育講演会
(ア)講師:社会人OBによる講演
(イ)講話:母校への誇り、将来へ向けて
イ 人間としての在り方生き方を考える集会
(ア)生徒・教師による体験発表
(イ)『私を語る』:将来への夢・自己開示・父母への感謝・部活への思い等



3. 本学における教員免許状更新講習での取組

教員免許状更新講習は、平成19年6月の教育職員免許法改正のもと、「その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ること」を目的として、平成21年4月1日から実施されている。

本学においては、平成21年度から県内外の現職教員等を対象に、夏季休業中に教員免許状更新講習を実施しているところである。平成27年度まで必修領域の内容に道徳教育が含まれており、その講習内容について述べていきたい。

道徳教育に関する講習においては、『今後の道徳教育の方向性（考える道徳、議論する道徳への転換）』【表9】に加え、各学校の道徳教育に活かせるよう「生徒が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用」や「話し合いの場の設定」、「動作化・役割演技の導入」等の『道徳の時間等における指導方法の創意工夫』【表10】等の具体的事例を提示し、学習指導要領改訂に伴う道徳教育の新しい方向性を示すとともに、学校で取り組める内容や実践的指導力向上のための創意工夫した指導方法の在り方を示した。

表9 【今後の道徳教育の方向性】

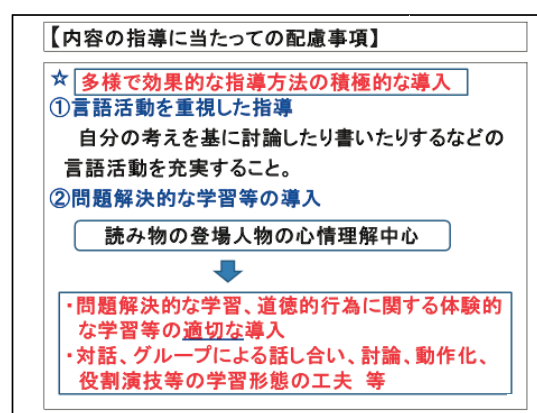
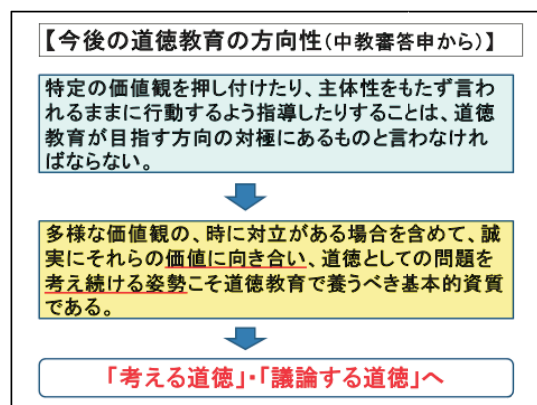
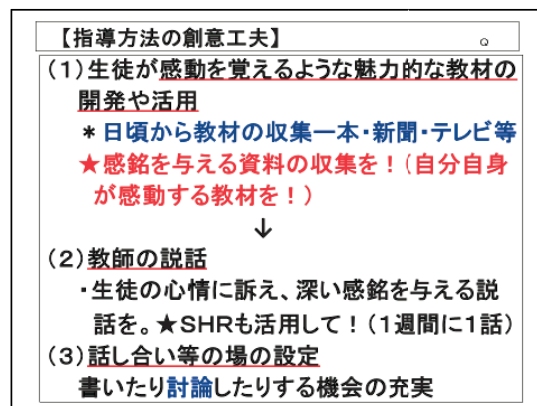


表10 【道徳の時間等における指導方法の創意工夫】



(4) 視聴覚機器の利用

テレビ、DVD、CD、映画、写真等

(5) 動作化、役割演技等**(6) 道德教育推進教師を中心とした指導体制の充実(小中)****① 全員で分担し全員の知恵を結集**

(教材の開発や指導方法の共有化)

② 家庭・地域を巻き込む

(人材活用、資料収集、公開授業)

道德の授業を参観すること(他の教諭・他の学校)

4. 今後の道德教育の在り方について**(1) 道德教育実施上の課題**

道德教育の充実・推進については、上記に述べたように、研究推進校等においては充実した取組がなされ確固たる成果が上げられているが、道德教育の実施に関して多くの課題を抱えている学校もある。校長時代に、校内研修で実施された道德の時間の授業において、国語の授業と思われる指導が行われ、道德の時間の目的の理解や指導方法等に関する教員の研修不足を痛感した経験がある。

学校現場の課題として挙げられている内容としては、

- ・ 道德の時間が各教科に比較し軽視されがちで道德教育の要として有効に機能していない。
- ・ 指導内容や指導方法に関し、学校間・教師間の格差が非常に大きい。
- ・ 道德の時間の授業が学校行事や補習に置き換えられてしまう。
- ・ 発達の段階が上がるにつれて、授業に対する児童生徒の受け止めがよくない。
- ・ 充実した教材が少ない。
- ・ 読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われている。
- ・ 児童生徒に望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業になっている。

などがあり、道德教育の一層の充実を図るための早急な改善・充実が求められていた。

(2) 道德に係る教育課程の改善等

このようなことから、平成26年10月の中央教育審議会答申「道德に係る教育課程の改善等について」において、下記の改善の方向性が示された。

- ① 道德の時間を「特別の教科 道德」として位置付けること
- ② 目標を明確で理解しやすいものに改善すること
- ③ 道德教育の目標と「特別の教科 道德」の目標の関係を明確にすること
- ④ 道德の内容をより発達の段階を踏まえた体系的なものに改善すること。
- ⑤ 多様で効果的な道德教育の指導法へと改善すること
- ⑥ 一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価を充実すること等

この答申を踏まえ、道德教育の充実を図るため、道德の時間を教育課程上「特別の教科 道德」として新たに位置づけ、その目標、内容、教材や評価、指導体制の在り方を見直すとともに、「特別の教科 道德」を要として道德の趣旨を踏まえた効果的な指導を学校の教育活動全体を通じてより確実に展開できる教育課程の改善を図ることが必要と考えられ、平成27年3月27日の学校教育法施行規則等の改正により、「道德」が「特別の教科 道德」に改められた。

移行措置期間を経て、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から全面实施されることとなっている。

(3) 学習指導要領改訂の主な内容**① 道德教育の目標**

道德教育の目標については、現行学習指導要領の総則における規定が整理され、簡潔な表現に改められるとともに、道德科の目標に関しては、様々な道德的価値について自分との関わりも含めて理解し、それに基づいて内省し、多面的・多角的な考え、判断する能力、道德的心情、道德的行為を行うための意欲や態度を育てること、さらに、これらを通じてよりよく生きていくための資質・能力を培うという趣旨を明確化するため、下記【表11】のように改められた。

表11 【「現行学習指導要領の道德教育」と「新学習指導要領の道德教育」の目標の対比（中学校）】

	目 標
現 行 学 習 指 導 要 領 の 道 徳 教 育	<p>「第1章 総則」の「第1 教育課程編成の一般方針」の2中段</p> <p>道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道德性を養うことを目標とする。</p> <p>「第3章 道德」の「第1 目標」前段</p> <p>道德教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道德的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道德性を養うこととする。</p>
道 徳 の 時 間	<p>「第3章 道德」の「第1 目標」後段</p> <p>道德の時間においては、以上の道德教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道德教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道德的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道德的実践力を育成するものとする。</p>
↓	
新 学 習 指 導 要 領 の 道 徳 教 育	<p>（「第1章 総則」の「第1 中学校教育の基本と教育課程の役割」の2の（2））</p> <p>道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とすること。</p>

特 別 な 教 科 道 徳	<p>「第3章 特別の教科 道德」の「第1 目標」</p> <p>第1章総則の第1の2の（2）に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p>
-------------------------------------	--

②「特別の教科 道德」（道德科）の内容

学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の要である道德科の内容については、内容を示す上で設けられている4つの視点が、「A 主として自分自身に関すること」、「B 主として人との関わりに関すること」、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」【表12】と、生徒にとっての対象の広がり即して順序が見直されるとともに、生命の尊重について、その重要性からDの視点の最初に位置付けられている。また、小学校から中学校までの内容の体系性を高めるとともに、構成やねらいを分かりやすく示して指導の効果を上げるなどの観点から、その内容を端的に示すキーワード（自主、自律、自由と責任等）が明示されている。

表12 【道德と道德科の内容項目の視点】

内容項目のまとまりを示す4つの視点	
道德の時間を要として行う道德教育の内容	道 徳 科
1 主として自分自身に関すること	A 主として自分自身に関すること [自主、自律、自由と責任]等
2 主として他の人との関わりに関すること	B 主として人との関わりに関すること [思いやり、感謝]等

3 主として自然や崇高なものとの関わりに関すること	C 主として集団や社会との関わりに関すること [遵法精神、公德心]等
4 主として集団や社会との関わりに関すること	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること [生命の尊さ]等

(4)今後の道德教育の在り方

今後の道德教育については、「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたずに言われるままに行動するよう指導したりすることは、道德教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない。むしろ、多様な価値観の、時には対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道德としての問題を考え続ける姿勢こそ道德教育で養うべき基本的資質である。」との答申を踏まえ、発達段階に応じ、答えが一つでない道德的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え向き合う「考える道德」、「議論する道德」への転換の必要性が中学校学習指導要領解説（特別の教科 道德編）に述べられている。これからの道德科の指導において、問題解決的な学習や体験的な学習等の多様で効果的な指導方法の積極的な導入が重要となってくる。

①道德科の指導法

道德科の指導方法については、『『特別の教科 道德』の指導法・評価等について（平成28年度7月：道德教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議報告）』において、道德科における質の高い多様な指導方法【表13】として、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」、「問題解決的な学習」、「道德行為に関する体験的な学習」の三つの指導方法が例示されている。

表13【道德科における質の高い多様な指導方法について】

I 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習	
ね ら い	教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道德的諸価値の理解を深める。
II 問題解決的な学習	
ね ら い	問題解決的な学習を通して、道德的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
III 道德行為に関する体験的な学習	
ね ら い	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道德的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

また、それぞれの学習の具体的な指導過程としては、下記の内容が示されている。

I 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習の指導過程

○導入：「道德的価値に関する内容の提示」

- ・教師の話や発問を通して、本時に扱う道德的価値へ方向付ける。

○展開：「登場人物への自我関与」

- ・教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、道德的価値を自分との関わりで考える。

○展開：「振り返り」

- ・本時の授業を振り返り、道德的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりする。

○終末：「まとめ」

- ・教師による説話。
- ・感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。等

II 問題解決的な学習の指導過程

○導入：「問題の発見や道德的価値の想起など」

- ・教材や日常生活から道德的な問題をみつける。等

○展開：「問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など）」

- ・グループでの話し合いなどを通して道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え、議論を深める。等

○展開：「探究のまとめ（解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見）」

- ・問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。
- ・問題の探究を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す。等

○終末：同上

Ⅲ 道徳行為に関する体験的な学習の指導過程

○導入：「道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など」

- ・日常生活で、大切さが分かっているにもかかわらず実践できない道徳的行為を想起し、問題意識を持つ。等

○展開：「道徳的な問題場面の把握や考察など」

- ・道徳的行為を実践するためには勇気がいることなど、道徳的価値を実践に移すためにはどんな心構えや態度が必要か考える。等

○展開：「問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など」

- ・ペアやグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。等

○展開：「道徳的価値の意味の考察など」

- ・同様の新たな場面を提示して、取りうる行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体感することを通して実生活における問題の解決に見通しをもたせる。等

○終末：同上

ただし、これらは多様な指導方法の一例であり、教員一人一人が学習指導要領の趣旨をしつかりと把握し、学校の実態や生徒の実態を踏まえ、授業の主題やねらいに応じて工夫改良を加えながら適切な指導方法を構築していくことが求められている。

②道徳科の評価の在り方

道徳科における評価については、「中学校学

習指導要領解説特別の教科 道徳」に「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」と述べられている。

また、具体的な在り方については、

○数値による評価でなく、記述式であること。

○他の生徒との比較による相対評価でなく、生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価として行うこと。

○個々の内容項目ごとでなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと。

○発達障害等の生徒についての配慮すべき観点等を学校や教員間で共有すること。

などが明記され、各学校においては、これらに基づき適切な評価を行うことが求められている。

このような学習指導要領改訂の趣旨や学習指導及び学習評価の在り方を参考に本学の道德教育指導論の授業内容・指導方法を改善・充実する必要があると考えている。

5. 本学の教職課程における道德教育指導論の在り方

(1)学習指導要領改訂への対応

本学においては、中学校教諭一種免許状の取得を希望する学生を対象に道德教育指導論を開設しているが、新中学校学習指導要領及び中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）を基に、これまでの県教育委員会や学校現場の取組等も参考にしながら、次の①～⑧の視点に立ち本学教職課程の道德教育指導論の授業内容を再構築していきたいと考えている。

また、平成31年度から学習指導要領改訂等に沿った新教職課程が実施されるため、道德教育指導論の授業内容を改善していく必要性が求められている。

①新学習指導要領及び学習指導要領解説特別の教科道徳編により、道德教育改訂の趣旨や目標・内容の理解を図る。

②「考える道徳」、「議論する道徳」への質的転換を図るため、道德教育指導論の授業において、[読み物教材の登場人物への自我関与が

中心の学習]、[問題解決的な学習]、[道徳行為に関する体験的な学習]等をどのように展開するか考え議論させ、具体的な学習活動を構想・構築させる。

- ③道徳科における指導方法の工夫については、音楽やビデオ等の映像を活用した「教材提示の工夫」、ペアでの対話やグループでの討論等の「話し合いの工夫」、教師の体験談や願い・時事問題等を取り入れた「説話の工夫」、役割演技や動作化・追体験等の「表現活動の工夫」等について具体的事例を基に理解させ、学習指導案作成や模擬授業に生かせるようにする。
- ④「考える道徳」、「議論する道徳」を展開するための創意工夫した道徳科の学習指導案を作成させるとともに、模擬授業を行わせ、授業後に授業研究会を設定し評価・改善に取り組ませる。
- ⑤道徳教育指導論においては、アクティブ・ラーニングの視点に立ち、自己の道徳的価値観を明確にするために主体的に考える場面を設定したり、ペアやグループでの話し合いを通して、考え・議論する機会を設定したり、協働で道徳的問題解決に当たる場面を多く設定したいと考えている。さらに道徳教育に係る実践的指導力を育成するために一人一人に模擬授業を行わせる。
- ⑥道徳科の教材については、「人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を含め、生徒が深く考えることができ、人間としてのよりよく生きる喜びや勇気をあたえるものであること。」等の教材使用の観点について認識させるとともに、新しく発行される検定教科書の使用及び県教育委員会や各市町村教育委員会で発行されている地域教材等の多様な教材の活用についての理解を図る。
- ⑦学校現場と連携しながら、学習指導要領改訂に基づく「道徳教育の全体計画」、「年間指導計画」等の作成方法についての理解を図る。
- ⑧道徳科における評価の意義について認識を深める。また、自己の課題や成長をみつめる「自己評価」、授業中に発言される内容を記

録した「エピソード記述」、道徳の授業で作成したワークシートや道徳ノート等で生徒の成長や発達を評価する「ポートフォリオ評価」、協働で問題解決に取り組む姿勢・役割演技・討論等の実演を通して学習状況や成長過程を把握する「パフォーマンス評価」等の多様な評価方法について理解させるとともに、具体的な在り方について検討させ、事例発表を行わせる。

(2)新教職課程への対応

平成31年度から実施される新教職課程において、教職課程を編成する際には、文部科学省が提示した「全国すべての大学の教職課程で共通的に修得すべき資質能力を示す教職課程コアカリキュラム」を踏まえるとともに、大学や担当教員による創意工夫を加え、体系性をもった教職課程になるよう留意することが求められている。

道徳教育指導論に関しては、下記の事項が教職課程カリキュラムとして設定されているので、平成31年度からの本学のシラバスに位置づけるとともに、授業内容の改善を図っていく。

『道徳教育指導論に関するコアカリキュラム』

①道徳の理論

一般目標：

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。

到達目標：

ア 道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。

イ 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。

ウ 子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。

エ 学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。

②道徳の指導法

一般目標：

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画

や指導方法を理解する。

到達目標：

- ア 学校における道德教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。
- イ 道德性の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。
- ウ 道德科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。
- エ 授業のねらいや指導過程を明確にして、道德科の学習指導案を作成することができる。
- オ 道德科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。
- カ 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

6. おわりに

道德教育は、人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹に関わるものであり、同時に、民主的な国家・社会の持続的発展を根底で支えるもので、学校教育の中核として重要な位置付けがなされるべきものである。しかしながら、道德教育の現状を考えると、先に述べたように学校現場での道德教育の取組に関しては多くの課題が見られる。その根本にあるのは道德教育の重要性が一人一人の教員に十分に認識されていないことではないかと思っている。将来の日本を担っていく子供たちに道德教育を通して豊かな人間性を培うことが日本の未来にとってどれほど重要なことかという認識を全ての教員が持つことが道德教育の改善・充実に繋がるものと考えている。

このような状況を鑑み、本学の道德教育指導論においては、これまでの道德教育推進上の課題を分析させるとともに、新たに位置づけられた「特別の教科 道德」の趣旨や目標を通して道德教育の重要性を学生に徹底して理解させたいと考えている。また、生徒たちの現実的な生活と乖離し形骸化しているといわれる道德の授業について、生徒が道德的問題を多角的・論理的に考えたり、主体的に判断し解決する能力を

育成する「考え、議論する道德」のための指導方法をこれまでの道德教育の取組及び今回例示された三つの指導方法を参考に、生徒にも教師に取っても魅力ある指導方法を修得させたいと考えている。

本学の学生が教師となったとき、道德教育の重要性を認識し、学校現場で積極的に道德教育の改善・充実に取り組める資質・能力の育成を目指して、道德教育指導論の授業に取り組んでいきたいと、今回の原稿をまとめながら考えたところである。

参考文献

- 1) 現行中学校学習指導要領
- 2) 中学校学習指導要領解説道德編
- 3) 新中学校学習指導要領
- 4) 中学校学習指導要領解説特別の教科 道德編
- 5) 「道德に係る教育課程の改善等について」
(平成26年10月21日 中央教育審議会答申)
- 6) 「特別の教科 道德」の指導法・評価等について（道德教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議報告：平成28年7月22日）
- 7) 平成12年度道德教育用郷土資料「熊本の心」指導資料（熊本県教育委員会）
- 8) 平成21年度中学校道德教育授業実践 DVD（熊本県教育委員会）
- 9) 平成20・21年度文部科学省・熊本県教育委員会指定道德教育実践研究事業（上天草市大矢野中学校）
- 10) 平成20・21年度文部科学省道德教育実践研究事業（熊本県立熊本商業高等学校）
- 11) 平成24年度宇土市立網田中学校道德教育指導計画
- 12) 教職課程認定申請書の手引き（文部科学省）

